

# 波紋

No.215

平成15年 5月  
May

PUBLISHER: 森松株式会社  
EDITOR: 梅田文康

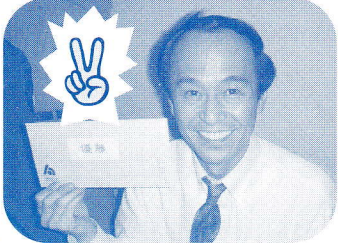


## 第5回ボウリング大会



去る4月19日(土)にボウリング大会が開催され、壮絶なバトルが繰り広げられました。

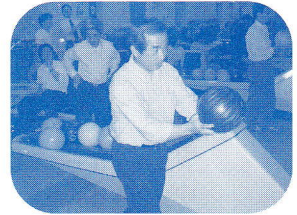
順位は、2ゲームトータルのスコアで決めますが、良いスコアを出しても1位になれないことがあります。それはハンディがあるからです。ハンディは2ゲームで10~120ピンあります。上手い人、過去の優勝者は当然ハンディは低いし、女性はハンディが高いので女性が有利だと思われるがそこは心理戦が展開され、ハンディの低い方は言葉や視線でハンディの高い方へプレッシャーを与え、スコアを悪くさせます。その甲斐あったか?今回は営業さんが良い成績を取めました。



- 優勝・牧野さん 364ピン**
- 2位・加藤さん 361ピン**
- 3位・森下さん 361ピン**



(1・2ゲームのスコアの差の少ない選手を上位とする)



**優勝・牧野さん談**  
「ボウリングで優勝出来るとは思わなかった。ボウリングより先にゴルフで優勝を取りたかった。」  
皆さんお疲れ様でした。

谷澤 享 (レインボー)



### アメリカ大陸横断

世間が何かと騒がしい時期に、学校の休暇を利用してアメリカ大陸横断ドライブを敢行しました。一週間でNYから三千五百マイル(五千六百km)の西海岸へとレンタカーで向かい、帰りは飛行機にて戻るという計画。日本の27倍とも言われる国土の広さと、変化に富んだ自然と気候を体感することが出来ました。

インターステートと呼ばれる州と州を結ぶ高速道路は無料で通ることが出来ます。途中で給油や食事の場合、数キロ手前から次の出口付近にあるレストラン、ガソリンスタンドの名前が必ず現れるようになっていきます。しかしながらほとんど出てくる看板の名前が同じ、つまり日本でも有名なハンバーガー店であったりファミリーレストランであったりと、その辺の地域性が少ないところ、日本で高速のサービステリアの料理が地域の名産をアピールしているのとは対照的です。一日で五百~六百マイル走らなければ一週間で走破出来ませんから、時間にして7時間前後、日中はほとんど走っておりません。

内陸部に入ると、平坦な道の両脇の植林が徐々に低くなり、中西部のテキサス州に入った時点でほぼ草だけになりました。両脇は草原以外に何も見えません。まさしく大平原です。そして、その隣の州のグランドキャニオンで有名なアリゾナ州に入ると、地面の色が徐々に草の緑から真っ赤な砂漠へと変わっていきます。澄んだ空気が青い空、赤と青の世界が広がり、地平線まで真っ直ぐ続く道。立ち寄ったグランドキャニオンはテレビ・雑誌で見慣れていましたが、それ以上に雲ひとつ無い空の大きさに感動し、自然の偉大さを感じることが出来ました。本当に貴重な体験だったと思います。あのアリゾナの空は西海岸へ行かれる機会があれば是非ご覧になって下さい。また、あのような素晴らしい自然がいつまでもそのままの姿であって欲しいと願います。



社長 森 直樹  
naoki@morimatsu.net

## 『価値観の違い』

日ごろよく使う言葉に「価値観がちがう!」「価値観の問題!」があります。価値観とは個人個人それぞれ使う人によって意味が違うようです。違った意味で使っているのに、一応その場を処理している。こんな事で良いのでしょうか?お互い話が伝わっていないのもかわからず、その場の雰囲気や分かったようなフリをしている。フリをしているだけだから後日問題が発生することが多い。商売上の問題まで、意味が違っているのにお互い気がつかないで別れてしまう。クレームが発生してから、やっと「価値観」がお互い違っていた事に気が付く。困った事です。

IT時代の弱点がここにもある。Eメールだけではコミュニケーションを構築する事は難しいですね。

ブランド品の「価値」は何によって生まれるか?

ある人に言わせると、それは「距離」である。ブランド商品を欲しがるのは、それが簡単に手に入らないから、つまり「距離」があるからで、いつでも手に入るものには特別「欲望」を感じない。手に入りにくいから「欲望」を感じ、そこに「ありがたみ(価値)」が生まれる。「距離」がなくなると「価値」は色あせ、「距離」をとるにつれて「価値」が高まる。

距離がブランドの「価値」の源泉なのだそうです。



手短に買えるブランド商品は「ブランド品」でなくなるわけですね?

森 信之

## 『我が家の「よっぴジョーダン」は?』

我が家には、小学5年生になる「よしや」という僕のコピーがいます。女系の中で育っていますので優しい男ですが、軟弱の甘えん坊です。健康で礼儀・挨拶の出来る男にたくてスポーツをやらせることにしました。

近所には、野球(僕が小学6年生の時に作った第一期生)・サッカー・ミニバスケットボールのクラブがありますが、漫画スラムダンクの「桜木・流川・宮城」に憧れて「スポーツ少年団・ペガサスミニバスケットボールクラブ」に入部しました。4年生の9月でした。通常、火・木・金は、18時30分~20時30分、土・日は、14時~18時が練習です。試合は、土・日に日程が組まれます。親子共々、生活サイクルが変わってしまいました。始めてわずか7ヶ月。飽き性の性格なので心配していましたがバスケットだけは人が変わった様に熱があっても休みません。それどころか、練習の1時間前には出て1人でシュートの練習をしているのです。今までは、試合の残り1分か30秒のところ、絶対に逆転されない点差の時だけ出場出来ましたが、6年生が抜けた今は、第1クォーター6分間フル出場。調子が良いと第4クォーターでも途中出場出来るまでになりました。3月の新人戦では、生まれて初めてのシュートを決めました。それも3本です。見ていて涙が出るほどの感動と鳥肌が立ち、冷静な僕でさえも大声で応援していました。いつもビデオを片手に息子を探している「ピッピー」と試合終了のホイッスルです。今後は、6分間もあるで記録に納めてやりたいと思っています。

将来の彼の夢は、NBAに所属して、誰もが認めるバスケットボール史上で最高のプレーヤー「マイケルジョーダン」の様な選手になることらしいです。少し前の夢は、森松に入って「リフトを運転すること」でした。感無量です!しかし、現実とは別として夢は大きく羽ばたいて欲しいです。

最近、家にバスケットゴールを設置しました。毎日コツコツ練習したら...。ひよっとしたらひよっとするかなあ?。よしてジョーダン!と思っていたが、ひよっとしたら「よしやジョーダン」になれる日が来るのではないかと...と思う。今日この頃です。



伊東 郁二 (プロジェクトA)

## 『流れ・人・自分』

今、森松産業はデスクの需要期に入り、生産体制も他の部署より応援を頂き生産に取り組んでいきます。

自分自身が、会社の組織の中で働いている事や今の自己の職務において、どのように行動し、カットのような指示にて人を動かす事(配置)の難しさを肌身に感じ四苦八苦しながらも多くの人に協力&アドバイスを心得て段取りを行なっています。個々の性格や能力に応じて仕事の配置を考えて適材適所を見出すむずかしさを、頭を抱えながらも...

ただ、今やらなくてはいけない事を常に考えて行動し、いかに段取り良く組立てるかが効率へとつながる。

【今・ここ・私】を重ね合わせ行動して行きたいと思えます



西垣 浩司  
(レインボー)





## 『ディズニー方式が会社を変える』

ビル・カポダグリリン・ジャクソン (著)

東京ディズニーランドには、12年前に行き、アメリカディズニーランドは、会社の旅行で行かせて頂いた事を思い出す。

感動の連続だった。もう一度(何回)行っても良いテーマパークである、会場の清潔さやテーマパークの面白さ、各イベントのスケールの大きさ、係員の気配りが今でも心に残っている。

この本を読んでなるほどと思える。この本の至るところに出てくる言葉が顧客(ゲスト)を第一主義で考えている事。ウォルトディズニーの考え、方針を今でも変えることなく徹底している事。

新人教育、社員研修を時間をかけて行っていることで年齢にこだわらなく楽しむことができ、また行って見たい気持ちにさせるヒントが、この本の内容であった。

テーマパークやイベントがどんなに素晴らしくても、社員の教育、職が駄目であれば当然顧客は集まらないし、一度行ったら二度とは行かなくなるのをディズニーが一番恐れている。ある社員研修を一日キャンセルしただけで即クレームが殺到したと書かれてあったが、顧客の敏感さはすごい。どんな小さな事でも大きなクレームとして響くからだ。

◆人々は、自分を大切にしてくれるところに戻ってくる

この言葉が印象に残る。

横山 敏秋 (ユニティー)

## 『プロジェクトX ザ・マン—すべては感動から始まる』

今井氏は、「感動する力とか感動が生み出す力がいろいろなところで忘れられているのではないかと、ずばり感動の喪失に日本の力のなさの原因を見出している。なるほどそのとおりだ。昨今、何かにつけ批評的な話が多く、理論理屈で武装した話の台頭たるや著しいものがある。思い起こせば私自身も例外ではない。留学中は趣味で文章を書いていたが、論文発表を控えたあたりからだろうか、理詰めの活字を組み立てていくその作業から意気が衰えていったような気がする。感動家を自負していた自分であるが、そこは須磨氏の語る「イメージーションが欠落していたら、いくら器用でもその技を使いようがない」というわけだ。喜びが生産するパワーとそのパワーが生み出す感動の循環、これこそが人生を楽しく生きる秘訣なのだろう。

IBMと戦いながらコンピュータ戦線を生きてきた池田氏(富士通)は「とにかく心がうち震えるほど感動するものを作りなさい」と言い、ソニーと戦いながらVHS家庭用ビデオを育てた高野氏(日本ビクター)は「組織というのは権力ではない、感動によって動かすものだ」と言う。森松入社、間もない私にとって、この言葉は感動創造営業マンというイメージを抱かせてくれた。

幸い、私の場合恩師が感動に生きているような人柄であったため、それを人生の目標としてくる幸に恵まれてきた。しかし日々の喧噪に流されがちだったこの時、感動なんていくらでも転がっているんだという当たり前のことを、この一冊から論された気がしてならない。この、感動とイメージーションを楽しく絡み合わせたとき、自分のできること、すべきことに幅が出てくるのだろう。「いま・ここ・わたし」を一步進める鍵は感動にあるのだ!

齋藤 浩一 (プロジェクト®)

## 『ピリヤード』

ピリヤードを始めて2年たとうとしています。友達に誘われ、球を撞く私にアドバイスとして「狙って打つだけだ」と言われたのが始まりでこれが思いのほかハマっちゃいました。

初めてのころは手球が正確に撞けずにチョロしたり空振りもありましたが、練習をしつかりとつみ基礎を身に付け、テクニクが上達しています。今思うと簡単に始められると同時に、とても奥が深いです。

ピリヤードは頭脳を使うスポーツです。球の進路を正しく予測しても計算どおり正確に撞かないと、球は狙ったとおりには進んでいきません。逆に計算どおりにことが運んだときは最高の気分です。今では友達と互角に勝負ができるようになり、上達したと思います。



松井 宣和 (レインボー)

2003年

5月の予定



- 2日(金) 大和田さん誕生日
- 3日(土) 憲法記念日
- 5日(月) こどもの日
- 10日(土) 第2土曜休み
- 11日(日) 松井えり子さん誕生日
- 12日(月) 誕生会  
12時00分～13時00分
- 17日(土) 第3土曜休み
- 18日(日) 西垣さん誕生日
- 22日(木) 経営会議  
7時30分～8時30分
- 営業会議
- 23日(金) 編集会議 16時00分～17時00分  
18時00分～
- 24日(土) 阿部さん誕生日  
健康診断 9時00分～12時00分
- 26日(月) 生産会議 18時00分～
- 27日(火) 伊藤さん誕生日
- 31日(土) 第5土曜休み

# 新入社員紹介



皆様、こんにちは。

四月から新入社員としてお世話になっております、田中美樹です。すでに、二月よりアルバイトとして、本社三階で事務研修、要工場現場研修をさせて頂きました。

最初は、今までとは違う環境に戸惑いと緊張で不安ばかりでしたが、先輩方の親切なご指導のもと、会社にも仕事にもだいぶ慣れてきました。本当にありがとうございます。

現在は、本社三階で産業事務研修をさせて頂いております。

まだまだわからない事ばかりで、ご迷惑をおかけすることと思います。覚えていかなければならないこともたくさんあるかと思いますが、先輩方から多くの事を吸収して、しっかり勉強をし、一日も早く一人前の社員として仕事ができるよう、努力していきます。

今後ともご指導よろしくお願い致します。

田中 美樹 (レインボー)

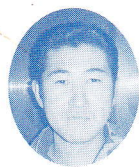


# 編集後記

先日、今年で還暦となる両親を連れて、滋賀県の大賀大社へ厄払いに行ってきました。お多賀さんは何度も行って、この町(多賀町)は、この大社で持っている、社屋が来る度に豪華になっていく事で知られます。

帰りに鯖街道で鯖寿司を食べたり、京都御所で梅を観たりと年甲斐もなくはしゃぐおふくろを見て、良い事をしたのでは？と思います。

ちゃんちゃんこを買ってやれるお金がないのでこんな事ぐらいしか出来ませんが、これからいろいろな所に両親を連れ出していこうと思います。



谷澤 享 (レインボー)

